〈特集〉新春×対談

「経済再生」は「地域力」で！

食、スポーツ、健康、まちづくり…地域を創るキーワード

宇都宮市長
佐藤栄一

×

宇都宮商工会議所 会頭
北村光弘

さとう・えいいち

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発（株）代表取締役。平成9年、（社）宇都宮青年会議所理事長就任。平成12年、（社）日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部会長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長（3期目）。

「宇都宮商工会議所は頼りになる存在」（佐藤市長）

北村　明けましておめでとうございます。

佐藤　今年もよろしくお願いします。昨年は会頭再任、おめでとうございます。

北村　2期目になりましたので、これまで以上に時代の変化に敏速に対応し、行動する商工会議所を目指していきたいと思います。

佐藤　行政にとっても、宇都宮商工会議所は頼りになる存在です。地域づくり、まちづくりに、ぜひご協力をお願いします。

北村　日本商工会議所の三村明夫会頭は、就任の所信で「中小企業の発展と地域の再生なくして、日本経済の発展はありえない」「今日、その地域が疲弊しており、日本再出発のためには、地域の再生が待ったなしの状況」と言っています。

佐藤　まさしくその通りですね。地域が良くなることが、日本再生の鍵だと思います。

「現場の問題を行政に伝えるのも大きな役割」（北村会頭）

北村　私は「地域の再生」と「中小企業の発展」は、国民的な合意であると思っています。そのためには、中小企業がいま直面している問題をキャッチし、日本商工会議所や地域行政に届ける事が、われわれの大切な役割です。

佐藤　私どもも、日ごろから地域の状況を中央に向かって伝えています。ですが、私どもだけでは限界があります。より地域に近い位置にいる商工会議所から情報をいただける、現場の声を伝えていただけることは、行政にとっても重要です。

北村　各地域におけるまちづくり、地域商工業や中心市街地の再生などにおいて、商工会議所の果たすべき役割は極めて大きいと思います。

佐藤　宇都宮市内でも9割以上は中小零細企業です。ですからこれらの企業が本当に良くならなければ、景気回復につながらないと思います。

北村　現状では国も、以前のような形で地方を支援するだけの力がないと感じています。地方分権の推進や地方ごとの独自性の発揮が不可欠です。そのためには、財源も伴わなければダメでしょうね。

「行政も『稼ぐ』意識をもって豊かな地域づくりを」（佐藤市長）

佐藤　私は、行政も「稼ぐ」＝「積極的に税収を増やす」という姿勢が重要だと考えています。私どもはこれまで、予算編成の際に徹底して無駄を省き、健全財政になるよう努力を重ねてきました。その結果「宇都宮市の財政はすばらしい」という評価もいただいています。

北村　とはいえ、そういった「やりくり」だけでは、いつまでも続きませんね。

佐藤　税収アップをいかに行うかが鍵になります。それには、企業経営がうまくいき、社員の皆さんの生活が安定し豊かになることが不可欠です。ですから、そのような環境を行政が作っていくことが重要です。

昨年末の補正予算全体が約17億円。そのうち約14億円で企業の経営を支援しています。

北村　そうした支援をいただきつつ、われわれ企業側の自助努力も重要です。行政に頼るのではなく、自分たちでまずがんばることが必要です。

佐藤　昨年は、アベノミクス効果か、税収も多少上向いてきました。今年は、さらに期待したいと思います。しかし、ただ黙っていたのでは良い方向には向かいません。行政も自助努力をし、先頭に立って汗をかいていくことが求められています。

「足利銀行再上場は明るいニュースですね」（北村会頭）

北村　そうした中で、足利銀行の再上場は明るいニュースでした。

佐藤　そうですね。「地域のための地銀」という基本を忘れず、栃木県経済のためにがんばっていただきたいと思います。

北村　昨年は円高や株価低迷が改善され、日本経済という大きな枠の中では、ずいぶん良いムードになってきました。けれども地方では、まだまだ景気回復の実感は弱い。足利銀行には、ぜひ地域経済回復の大きな支援企業になっていただきたいと願っています。

佐藤　マスコミ報道では、大手企業の冬のボーナスはバブル期以来の上げ幅だそうですね。地域の中小企業は…。

北村　まだまだ、そこまで行かないのが実情でしょう。それに、消費税率が5％から8％に上がります。

私どもでもさまざまな情報発信や指導支援を行っています。今心配しているのは、やはり増税後の景気です。せっかくの回復基調を損なわなければいいのですが。

佐藤　一方、中心商店街の通行量が増えたのはいいニュースですね。

北村　休日の通行量が伸びたので、喜んでいます。

佐藤　平日もほぼ横ばいですから、ムー

新春恒例の、宇都宮市長と当所会頭による対談をお届けします。昨年11月に再任（2期目）された北村光弘会頭と、市長3期目でますます腕を奮っている佐藤栄一市長が「宇都宮をもっと盛り上げるには」をテーマに対談しました。

きたむら・みつひろ

昭和17年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒業後、（株）横倉本店に入社。平成12年から同社代表取締役会長を務める。平成19年から宇都宮商工会議所副会頭を務め、平成22年11月に第18代会頭に就任。ほかに公正取引委員会独占禁止政策協力委員、日本商工会議所常議員、栃木県商工会議所連合会会長、宇都宮地区雇用協会会長など多数務める。

10月19日に行われたクリテリウムは、約3万8000人が観戦

昨年7月23日に行われた宇都宮商工会議所創立120周年記念式典

ドとしてはいい方向です。これを活かして、ぜひ中心商店街の活性化が進むことを期待しています。

「創立120周年 盛りだくさんの1年でした」（北村会頭）

佐藤　昨年は宇都宮商工会議所創立120周年の年でしたね。ひとくちに120年と言いますが、すばらしいことです。おめでとうございます。

北村　ありがとうございます。この日を迎えられたのも、多くの会員企業や関係各位のおかげであります。市長にもさまざまなお骨折りをいただきました。

　昨年の7月には、記念式典や記念誌発行、それに合わせて商工会議所キャラクター「しょうちゃん」のお披露目などを行いました。11月には会員バスツアーやものづくり展示・商談会を開催し、いずれも好評でした。12月に行った記念講演会には、作家の童門冬二氏を講師にお迎えしました。その後の交流会には、宇都宮市を拠点にしているプロスポーツ団体にもご登場いただいて、華やかな雰囲気になりました。

　2月21日には、青年部全国大会にあわせて「街なか祝賀会」を予定しています。

　他に、商工会議所の歩みパネル展や会員拡大特別キャンペーンなども行っています。盛りだくさんの1年です。

佐藤　それだけの意義のある周年事業だと思います。これまでの雷都物語キャラクター「ごろっぺ」と商工会議所キャラクター「しょうちゃん」は、どちらも人気者で大活躍ですね。

写真上／宇都宮商工会議所のキャラクター「しょうちゃん」
写真下／宇都宮雷都物語キャラクター「ごろっぺ」

「昨年の餃子祭りは過去最高の人出」（佐藤市長）

北村　それにしても、餃子の知名度はすごいですね。昨年春に盛岡で観光関連の集まりがあったのですが、そこでも宇都宮の餃子は、みんな知っているんですよ。

佐藤　昨年11月の宇都宮餃子祭りには、過去最高の14万2千人の方にお越しいただきました。お客様の中には、餃子祭りの始まる1時間前から、並んでいた方もいたようです。市役所のまわりも、他県ナンバーの車であふれていました。

北村　餃子の消費量も昨年10月の時点では1位でした。年間日本一奪還も期待できそうです。

佐藤　昨年も、宇都宮餃子会が中心となって「宇都宮餃子日本一奪還計画」と銘打ち、さまざまな企画や餃子のPRを行っていただきました。

北村　今月末に消費量の発表がありますので楽しみです。

佐藤　ただ、餃子の消費量はスーパーや小売店で購入した「焼き」や「生」のみカウントされるんですよね。

　宇都宮餃子会の方々は、自店の消費ではカウントされない事を知った上で、あんなに一生懸命汗をかいておられる。本当にすばらしいことだと思います。頭が下がります。

昨年も大人気だった「宇都宮餃子祭り」（11月2日･3日）

「クリテリウムの迫力はすばらしい」（北村会頭）

北村　スポーツもさまざまなイベントが増えています。中でもジャパンカップサイクルロードレース・クリテリウムは、宇都宮市を代表するイベントの一つに育ちつつあります。

佐藤　クリテリウムは、今年で5回目を迎えます。これまでの4回とは違ったことも企画していきたいと考えています。そこでぜひ商工会議所の皆さんにもお力添えをいただきたい。

北村　間近で観戦すると、本当に素晴らしい迫力です。ただただ驚き、感動です。もう5回目を迎えますか、早いですね。

佐藤　クリテリウムの人気は年々高まっていますから、今年はぜひ行政としても新しい企画を考えたいと思います。お金をあまりかけなくても、市民の皆さんに楽しんでいただくことができる企画がいいですね。

北村　スポーツといえば、毎年恒例の宇都宮マラソン大会も人気です。

佐藤　昨年11月の第27回大会には、市内外の健脚6、257人にご参加いただきました。商工会議所にもご後援いただき、ありがとうございました。

「健康寿命の延伸は行政にとって大きなテーマ」（佐藤市長）

北村　今年の10月には「ねんりんピック栃木2014」が開催されます。

佐藤　健康寿命をいかに伸ばすかということは、行政にとっても大きなテーマです。商工会議所の皆さん、企業の皆さんにも、ぜひ積極的にご参加いただきたい。

　それから、企業内で健康意識の向上などを図っていただきたいと思います。健康な生活を送る事ができれば、医療費が削減されますから、家計にとっても実質的なプラスになりますし、社会全体にとっても医療費の増加は大きな問題になっていますから、やはり重要です。

　後期高齢者の医療費財源は、現役世代が4割を負担しています。これを減らすことができれば、景気回復にもつながると思います。

北村　なるべく身近に運動を感じることが大切ですね。

佐藤　そうなんです。クリテリウムでも、マラソン大会でも。ねんりんピックも、運動や健康づくりの、いいきっかけになるでしょう。運動をして、食生活に気をつけて、健康寿命をのばしていただきたい。

北村　私も以前はプールに通っていたのですが、今はさぼっています。そろそろまた始めたいと思います。

「地域全体の活性化に寄与していきたいと思います」（北村会頭）

北村　私どもでは、LRTやJR宇都宮駅東口整備などについて、市に要望書を提出しています。ぜひ将来に希望の持てるまちづくりをお願いしたいと考えています。

佐藤　皆さまのご提案やご要望などは、常にありがたく感じています。行政（市）と経済界（商工会議所）が両輪になって、地域づくりを進めていきましょう。

　宇都宮市が推進しているネットワーク型コンパクトシティは、日常生活に必要な機能が集まる「地域拠点」、そして、より高次な機能が集まる「都市拠点」などが、有機的に結合して構成されるものです。すでに地域内交通など、さまざまな事業に取り組んでいますが、さらに整備を進めていく中で、事業者の方々、特に公共交通事業者の方々には、さまざまなご理解、ご協力をお願いしていきたいと思います。

北村　公共交通の整備、利便性の向上は重要ですね。

佐藤　民間の開発もこれから進むとは思いますが、そこから先が、私ども行政の課題です。民間が出て来られる環境づくりを進めていきたいと思います。

北村　今年は青年部全国大会など、宇都宮を全国に発信する事業もあります。これを機会に、さらに事業を推進し、会員企業だけでなく地域全体の活性化に寄与していきたいと思います。よろしくお願いします。